

世界転換期のアジアと日本

白石 隆

熊本県立大学理事長

いま何が問われているか？

「世界の転換期」 (Biden) 、 「未曾有の国難」 (岸田)

- ・ 世界金融危機：グローバル化主義の終わり
- ・ 米中対立激化：新冷戦？
- ・ ロシアのウクライナ侵略：帝国主義の復活？

どう考えるか？

- ・ 民主主義と専制の対立？
- ・ 「二十世紀システムの終わり」
 - = (「アメリカの平和」 + 「ドル本位制と自由貿易」 + 自由民主主義 + 市場経済) の危機
 - = 「自由主義的国際秩序の危機」

1 大きな趨勢

- 先進国・G7の地盤沈下 vs. 新興国の台頭
- 欧米の地盤沈下 vs. アジアの台頭
- 日本の地盤沈下 vs. 中国の台頭

ASEAN、インドの成長

この趨勢は変わるのか？

	Gross Domestic Product (current prices, shares)						
	1980	1990	2000	2010	2019	2020	2021
World	100	100	100	100	100	100	100
Advanced Economies	76.9	79.7	79.8	65.7	59.5	59.6	59.1
G7	63.6	64.9	65.6	50.1	45.4	45.5	44.7
Emerging Economies	25.6	20.3	20.2	34.2	40.6	40.4	40.1
N. America	28.1	28.9	33.2	25.4	26.5	26.5	26.3
USA	25.6	26.3	31	22.9	24.5	24.6	24.2
Canada	2.47	2.6	2.2	2.5	2	1.9	2.1
EU (European Union)	25.4	31.9	26.6	26	17.4	18	18
UK	5.4	4.8	4.7	3.7	3.2	3.2	3.3
France	6.3	5.6	4.1	4.1	3.1	3.1	3.1
Germany	7.4	7	5.9	5.3	4.4	4.5	4.5
Italy	4.3	5	3.5	3.3	2.3	2.2	2.2
Indo-Pacific	18.8	22.1	25.6	27.8	33.7	34.8	34.4
Japan	9.9	13.6	14.3	8.4	5.9	5.9	5.4
China	2.7	1.7	3.6	9.3	16.4	17.5	17.8
Hong Kong	0.3	0.3	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4
Taiwan	0.4	0.7	1	0.7	0.7	0.8	0.8
S. Korea	0.6	1.2	1.7	1.7	1.9	1.9	1.9
ASEAN-5+VN	1.9	1.6	1.9	3	3.1	3.1	3
Indonesia	0.9	0.6	0.5	1.2	1.2	1.2	1.2
Malaysia	0.2	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4
Philippines	0.3	0.2	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4
Singapore	0.1	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4
Thailand	0.3	0.4	0.4	0.5	0.6	0.6	0.6
Vietnam	n/a	0	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4
India	1.7	1.4	1.4	2.6	3.3	3.1	3.1
Australia	1.5	1.4	1.2	1.9	1.6	1.6	1.7
Russia	n/a	n/a	0.8	2.5	1.9	1.7	1.7

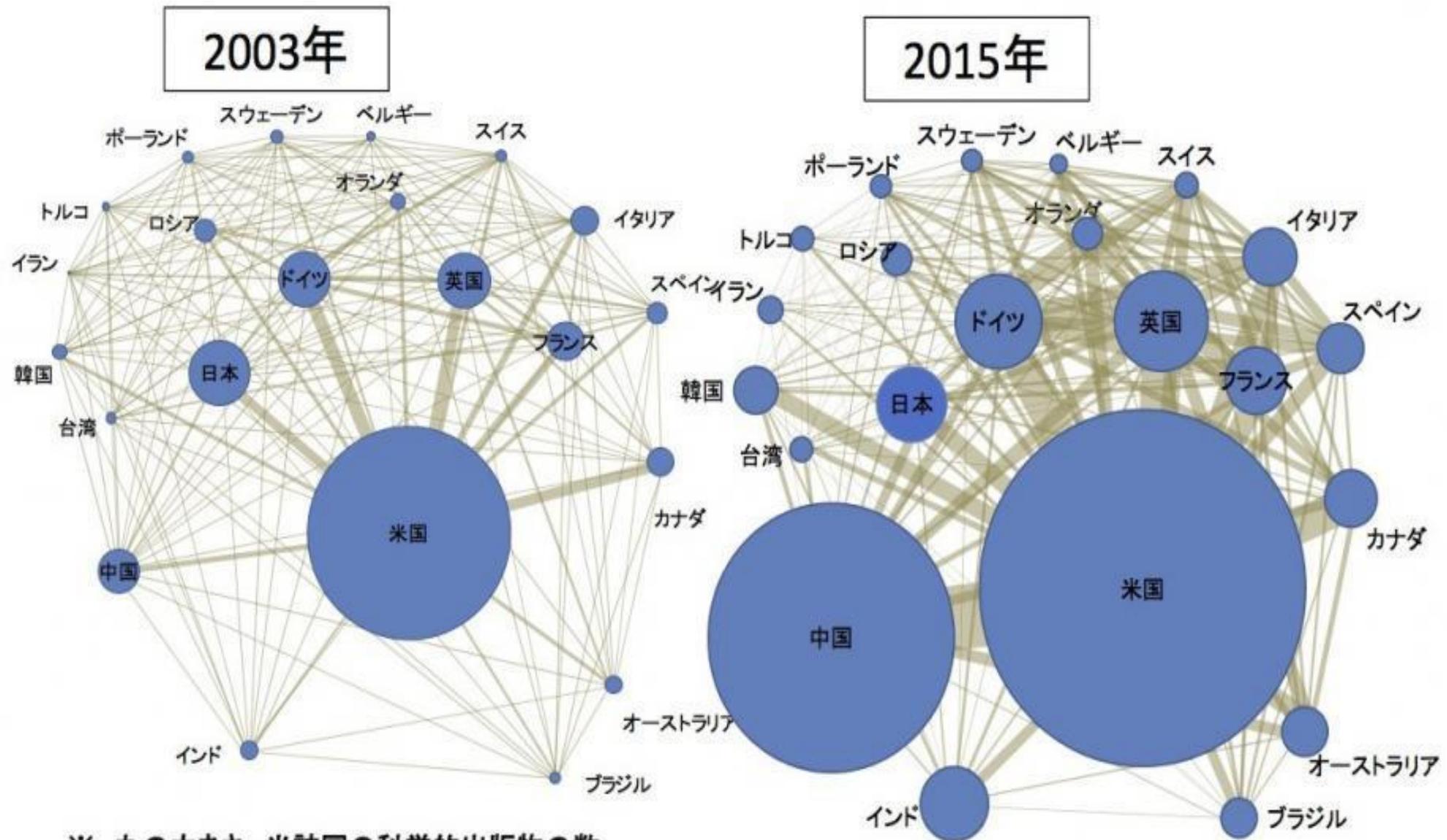
<https://www.imf.org/en/Publications/WEO/weo-database/2021/October>

* 1980-1990 Southeast Asia signifies ASEAN-5

2020	軍事支出	米国比	GDP比			軍事支出	米国比	GDP比
USA	766,583	100	3.7		India	73,001	9.52	2.9
UK	58,485	7.63	2.2					
France	51,572	6.73	2.1		Indonesia	9,488	1.24	0.9
Germany	51,570	6.73	1.4		Malaysia	3,910	0.51	1.1
Japan	48,160	6.28	1		Philippines	3,495	0.46	1
S. Korea	46,056	6.01	2.8		Singapore	11,020	1.44	3.2
Australia	27,618	3.6	2.1					
China	244,934	31.95	1.7					
Russia	66,838	8.72	4.3					
Ukraine	5,995	0.78	4.1					

Military expenditure by country as percentage of gross domestic product, 1988-2020 © SIPRI 2021

科学技術 出版物で見たネットワーク



※ 丸の大きさ: 当該国の科学的出版物の数
線の太さ: 科学的出版物の各国間の共著関係の強さ

2 国内秩序の変容（新興国）

- 膨らむ期待：「これからは我々の時代」
- 中間層の拡大
- 格差の問題 中間所得層 vs. 下位所得層
 - ナショナリズムの高揚（現在の秩序は先進国が作った）
「経済成長の政治」政治の目的は経済成長と国民生活向上
 - 「自国ファースト」
期待に応えられないと政治は不安定化
中間層と下位所得層の対立

国内秩序の変容（先進国）

中から下の所得層の所得伸び悩み

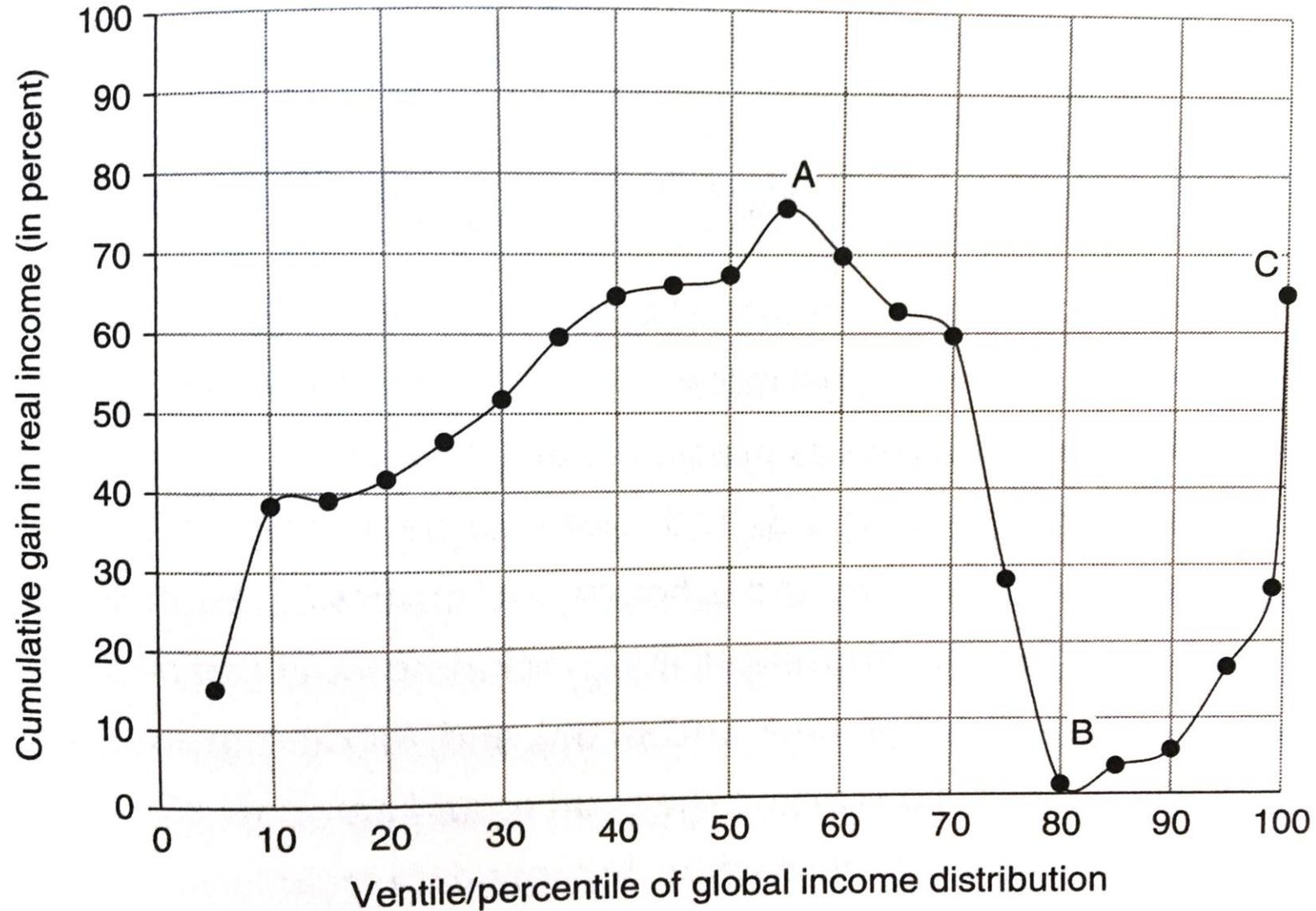
富裕層の所得の大きな伸び

→ 所得格差、資産格差の拡大

グローバル主義への反発（→トランプの「アメリカ・ファースト」）

内向きのナショナリズム（移民への敵意、人種差別等）

世界人口所得階層別所得伸び率 1988-2007

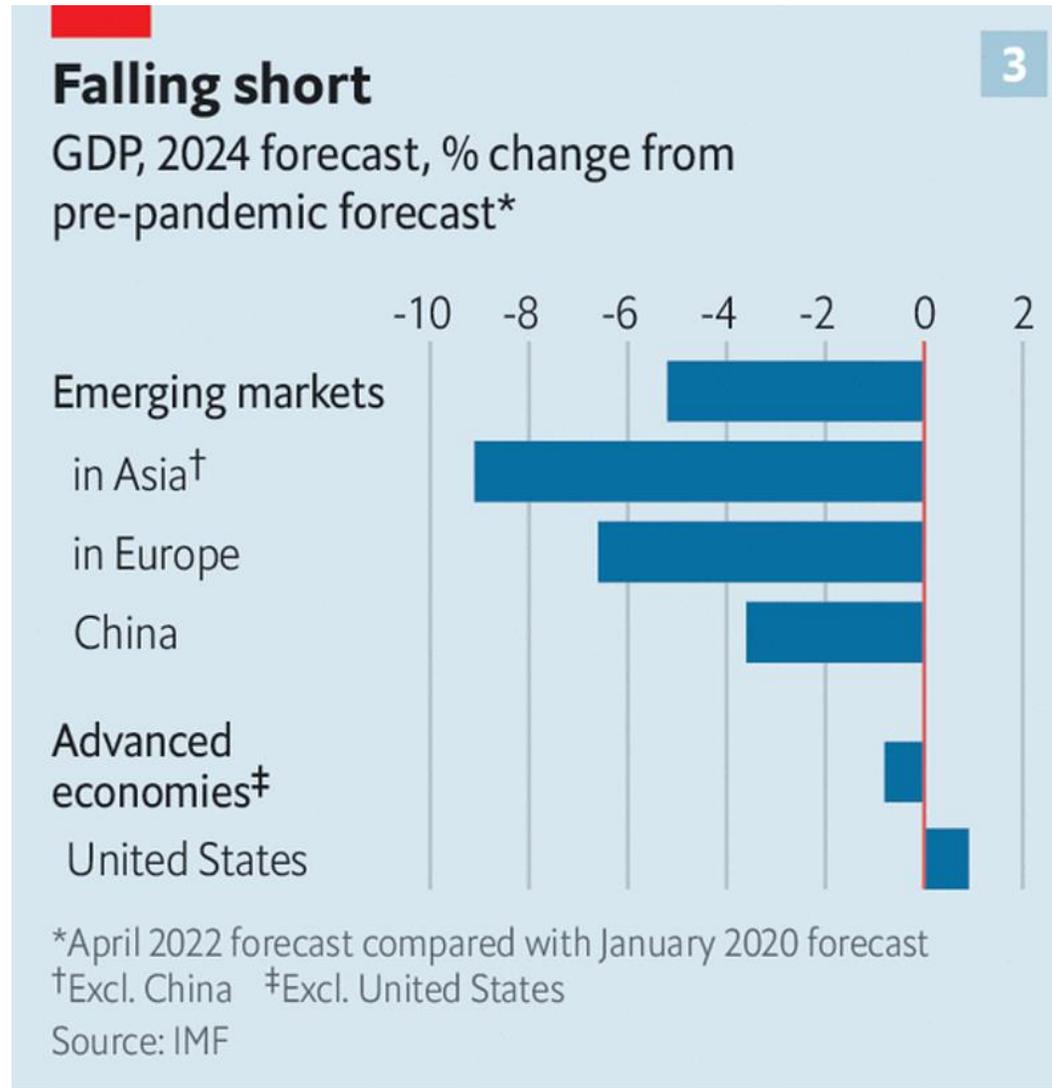


一人当たりGDP、 constant prices, national currencies			
	2000	2019	20年間の所得の伸び
Indonesia	19,674,901	41,021,939	2.08
Malaysia	24,726	43,627	1.76
Myanmar	393,293	1,683,411	4.28
Philippines	90,778	189,524	2.09
Singapore	47,948	83,330	1.74
Thailand	83,465	156,911	1.88
Vietnam	17,837,508	50,105,199	2.81
China	13,709	63,985	4.67
India	37,489	106,507	2.84
Australia	58,383	74,683	1.28
France	30,985	35,831	1.16
Germany	31,372	38,900	1.24
Japan	3,640,359	4,247,044	1.17
UK	25,530	31,298	1.23
USA	45,639	56,844	1.25

途上国・新興国の成長は続くのか？

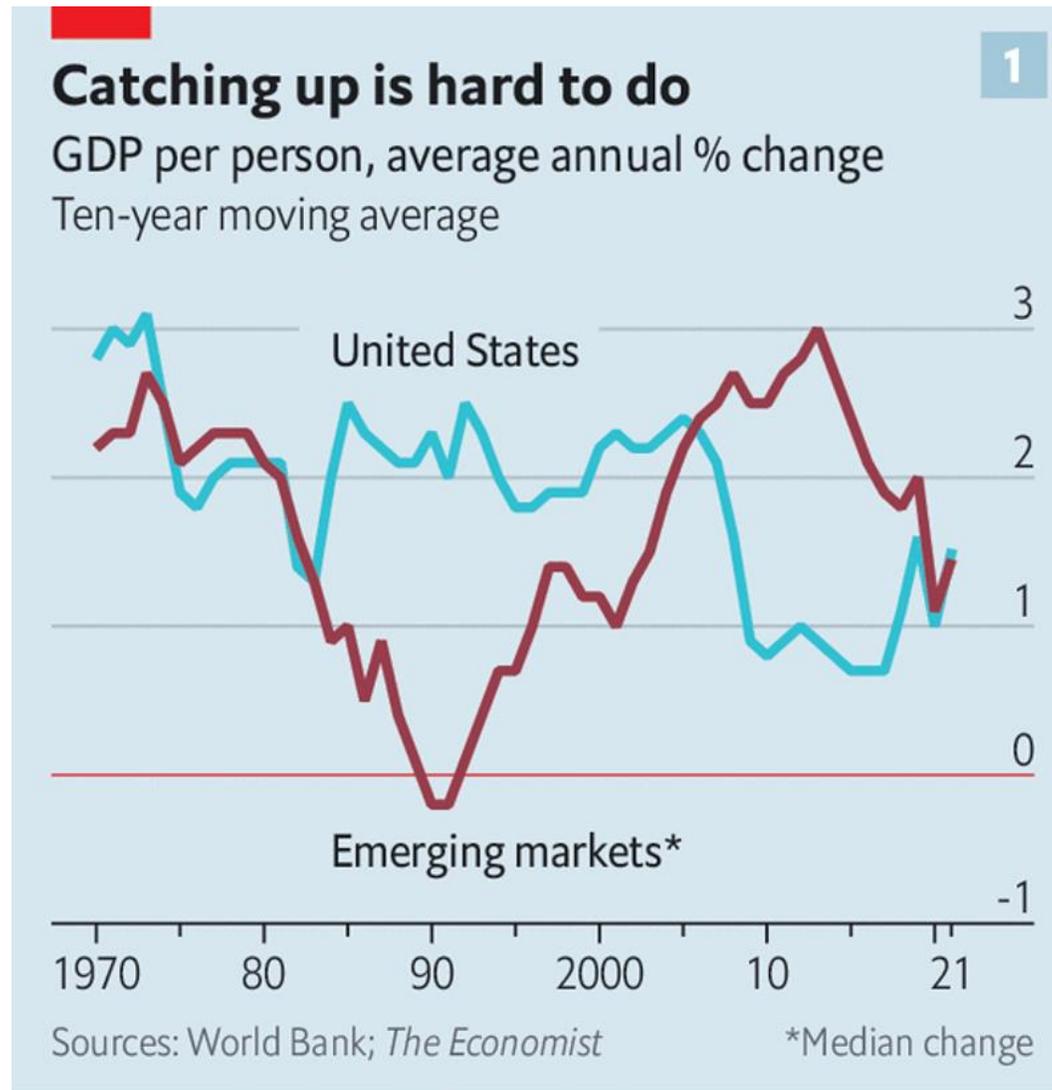
国民の期待する成長：生活水準の向上が達成できないと政治は不安定化する

- ・ コロナ対応による「抵抗力」（貯蓄）低下
 - ・ 債務の拡大
 - ・ インフレ（特に資源価格高騰）
 - ・ FRB金利上げ
 - ドル高、現地通貨建てドル建て債務拡大、資金流失
 - 現地金融当局の金利上げ
 - 景気後退：地域、資源賦存で違う
- 債務危機（スリランカ、パキスタン、ザンビア・・・）



The Economist

<https://www.economist.com/finance-and-economics/are-emerging-economies-on-the-verge-of-another-lost-decade/21808963>



The Economist

<https://www.economist.com/finance-and-economics/are-emerging-economies-on-the-verge-of-another-lost-decade/21808963>

3 中国の大国化・米中対立激化 大きな趨勢を踏まえた戦略

中国

基本的判断

- ：世界の趨勢は「中国夢 China Dream」実現の好機
- ：中国はこれからも台頭する、米国は衰退する
- 「世界の大変化による不安定化」（習近平）
- 「時は我々にある」、時間は限られる（少子高齢化の未来）

転機 : 2008年の世界金融危機

→ 「韜光養晦」戦略から自己主張へ

習近平：「毛沢東以上の指導者」への意思

「中国はどんな国より大きい」（「帝国」的 rule-making）

→ 中国例外主義、ハブとスポークの国際的秩序

（国際秩序は中国の国益に反しない限り、尊重する）

戦略的対応：「中華民族の偉大な復興」「天下の秩序」

・双循環：内需主導（vs. 輸出主導）

→ サプライチェーンの大ハブ

→ 戦略的不可欠性確保

→ 「自立自強」

新興地域重視（よらしむべし）

= 国有企業主体の「中国化」

その問題：

成長を牽引できるのか？

技術移転なしにできるのか？

例：半導体

一帯一路：

インフラ建設支援：鉄道、高速道路、港湾、発電所・・・

→ デジタル・シルクロード

→ 戦略的投資（資源、新興技術産業関連）

その問題

・ 経済力（融資・投資・貿易）による政治的意思の押し付けと

その限界（地政学的、国内政治的、オポチュニズム）

・ 債務危機にどう対応するか？（パリ・クラブとの関係）

東南アジア：ラオス、カンボジア、ミャンマー、マレーシア

ユーラシア連携：ロシアと中央アジア

インド洋に出る（ミャンマー、パキスタン、スリランカ）

資源獲得（アフリカ、ラテン・アメリカ）

地政学的争点：

- ・台湾 有事とグレーゾーン事態
- ・南シナ海 グレーゾーンにおける強制力行使

注意すべき点

- ・「てこ」としての経済力 vs. 「核心的」利益 vs. 大国主義
- ・習近平と六人の「秘書」の指導能力
- ・ポスト習近平のタイミング
- ・他国のエリートの動向

elite coalition vs. どこで子弟を教育するか

米国

2022 安全保障戦略：中国とロシアは現状変更勢力

現状判断 自由主義的国際秩序への挑戦

中国： アメリカに対抗する能力を持つ唯一の国

Koreas in, Japan down, US out

先端新興技術分野における優位

「途上国大国」=WTO「ただ乗り」

世界金融システム「ただ乗り」

争点 「自由で開かれたインド太平洋」

「先端新興技術」

情報インフラ（5G・クラウド・AI・自動化）

貿易・投資・援助：産業政策と経済協力

Regional Architecture

二つの海洋同盟

- 北大西洋同盟 (NATO)

欧州 西 vs. 東

→ 結束強化、NATO+、ドイツの政策転換

- 太平洋同盟 (ハブとスポークス)

アジア 海洋 vs. 大陸

中国台頭 = 脅威の増大

→ 「アジア太平洋」から「インド太平洋」

→ ネットワーク化 + QUAD + AUKUS + ?

Regional Architecture

- インド太平洋戦略：リバランス+TPP（オバマ時代）
 - アメリカ・ファースト（トランプ時代）
 - 同盟強化+連合（trusted partnerships）
- geopolitics：ハブ・スポークス・システム→ネットワークへ
 - QUAD、AUKUS、日豪準同盟化
 - 南シナ海、台湾、東南アジア諸国との連携
 - NATO+（NATOとの連携強化）
- geo-economics →インフラ協力
 - Trusted Partners（半導体・・・）
 - 科学技術イノベーション
（AI・ロボット、量子、若手研究者養成・・・）
 - IPEF (Indo-Pacific Economic Framework)

4 ロシアのウクライナ侵攻

その衝撃

- ・ 戦争（力による現状変更）はありうる
- ・ 核兵器の使用もありうる

その効果

- ・ NATOの再活性化：「西」 vs. 「東」
- ・ ドイツの政策転換：国防費増、エネルギー政策転換
対中政策は転換したのか？
- ・ 東アジアにおけるそのインプリケーション
- ・ 中国の誤算（？）

5 東アジア、アジア太平洋、インド太平洋

歴史：アジア太平洋

→ 東アジア (ASEAN+3 → ASEAN+6 → ASEAN+8)
→ インド太平洋

なぜか？ 地域概念は主たる脅威が何かで変わる

- ・ 中国の大国化・大国主義化
- ・ ASEANの漂流 (ASEAN+のプロセスの機能不全)
 - 「海のアジア」における自由主義的地域秩序の維持
= QUAD、AUKUS . . .
- ・ 韓国と台湾：大戦略の違い、戦略的地位の違い

東南アジアの戦略的位置

- 政治体制

民主主義：フィリピン、インドネシア、マレーシア（島嶼部）

権威主義：ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー
シンガポール、ブルネイ（島嶼部）

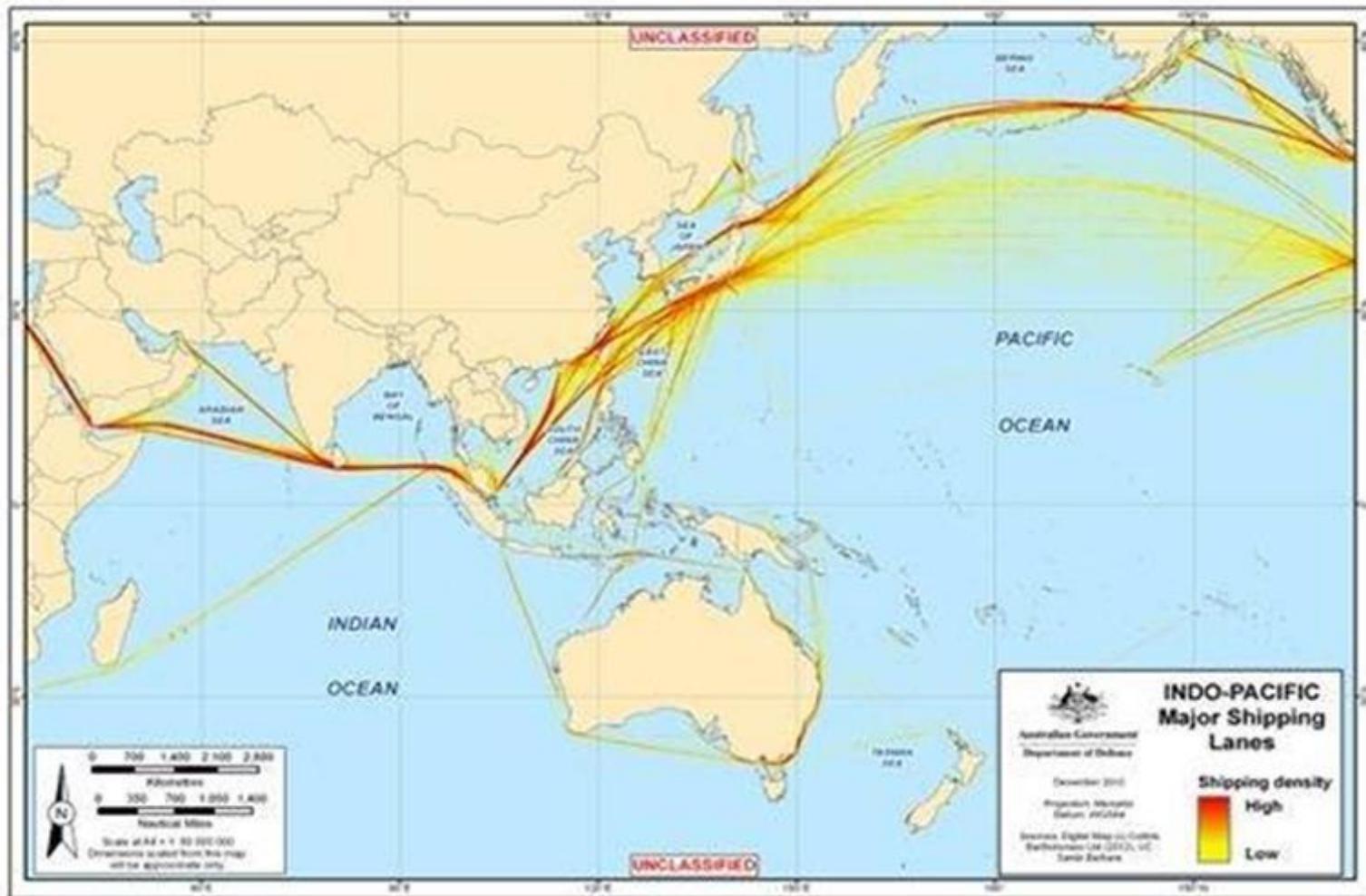
- 地政学的、地経学的

中国との領土紛争/米国の軍事プレゼンスを与件とした安全保障政策
経済における中国の重み/世界経済への統合のレベル

- 島嶼部におけるインドネシアとフィリピン
大陸部におけるタイとベトナム



The Indo-Pacific sea lanes



Source: Defence White Paper 2013. Department of Defence, Australian Government



The Economist

<https://www.economist.com/asia/2021/04/08/china-tries-to-nick-another-speck-in-the-sea-from-the-philippines>

Commercial power

Trade with East Asia and the Pacific*, \$trn



Source: World Bank

*Excluding China



The Economist

<https://www.economist.com/finance-and-economics/are-emerging-economies-on-the-verge-of-another-lost-decade/21808963>

信頼の問題：

米国 ← アメリカ社会の分断（社会契約見直しに時間）
同盟連携とアメリカ・ファーストの間の揺らぎ

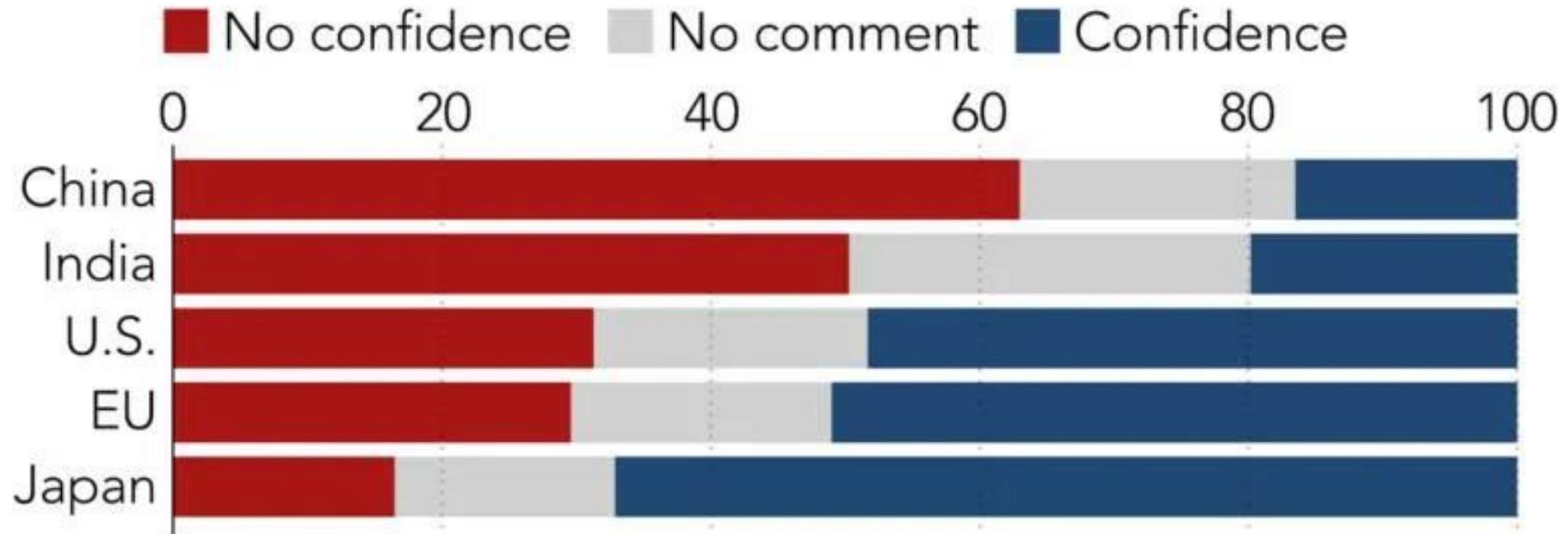
中国 ← 大国主義（帝国的ルール・メイキング）
高度監視国家
経済協力はいつでも経済制裁になる
党国家体制の将来不安（いつかはわからない）

日本の位置：信頼 + unthreatening + 「てこ」

新興国： middle powerとしての自信 + グローバル化の恩恵
→ ナショナリズムとグローバル主義のはざま
全て「自国ファースト」

Trust perception towards major powers

(Percentage of respondents)



Poll of 1,032 people such as academics, government officials and business people across the 10-nation ASEAN bloc conducted from Nov.18 to Jan.10
Source: ISEAS-Yusof Ishak Institute

まとめ

- 1) グローバル主義の終わり・ナショナリズムの台頭
 - ← 富と力の分布の変化（新興国の台頭）
 - 北大西洋とインド太平洋、ユーラシア大陸、それぞれの地域システム
- 2) 「アメリカの平和」の終わり？ sphereの縮小
 - ← ロシアの「無頼国家」化と中国の挑戦
 - 新興国の行動の自由の拡大
 - 「戦争」の変容：グレーゾーンは戦争の一部
- 3) 新興産業技術・人材の圧倒的重要性
- 4) 途上国と新興国（「グローバル・サウス」？）
 - 途上国の課題：先進国と中国の役割、危機対応
 - 新興国の課題：国民の成長への期待に応えられるのか？
 - 地域システムの違い（eg. 南アジア vs. 東南アジア vs. 中東）

5) インド太平洋諸国の動向

エリートの動向：Anglo・・・の台頭

ポスト・コロナにおける経済成長

期待される成長と生活水準向上が実現しないと？

危機における対応

ASEAN諸国を個別に見る

インドネシアとタイの重要性

世代交代、成長、大戦略

日本の課題

「自由で開かれたインド太平洋」

人への投資、成長への投資、軍事・経済・エネルギー安全保障

- (1) 防衛力拡充、防衛産業技術基盤強化、双務性拡大
安全保障システム(豪州事実上の同盟国化、韓国の動向)
台湾有事への対応、台湾との協力強化(グレーゾーン)
- (2) 新興国連携(特にASEAN諸国とインド)：長期的視点
安全保障・産業技術協力(防衛装備移転)
サプライチェーン再編、人材育成協力
- (3) 経済安全保障：「知る」と「守る」のシンクタンク、
「育てる」ための人材投資、新興産業技術投資、国際連携
- (4) エネルギー安全保障：再生+原子力→水素、地政学的再編
S+3E → E(安定供給)+E(環境)+SE(安全、効率性)